

[論 文]

マレーシアと日本におけるIntercultural Learning and
Community Engagement (ILCOME) プログラムの展開
——国際学会と短期留学プログラムを組み込んだサービ斯拉ーニング——

Scope of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME) :
As a Service Learning Incorporating both an International Conference and a Study Visit Program

安倍尚紀¹
Abe DN Naoki

概要 本稿は、大分県立芸術文化短期大学において2012年度、2013年度、2014年度と3年連続で実施してきたInternational Learning and Community Engagement (略称ILCOME) プログラムについて詳論したい。ILCOMEプログラムは、毎年2月から3月にかけて、(1) マレーシア短期留学研修と呼ばれる国際交流プログラム、(2) ILCOME2013~2015と呼ばれる国際学会の総称となっている。

特に(2)の国際学会として2014年度は、これまで2年続けて、マレーシア・クランタン州のUniversity Malaysia Kelantanで開催していた国際学会パートを、2015年1月23日~25日に大分県立芸術文化短期大学で開催した。また(1)短期留学研修として、本ILCOMEプログラムは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を活用しながら、サービ斯拉ーニング^①という地域活動実践として実施しており、教育・研究・地域貢献において多くの成果を期待できる。それだけでなく、今回の日本での学会開催によって、基本的には東南アジアのマレーシアという遠く離れた場所をベースにするILCOMEは、決して大分県への波及効果がないわけではないこと、教員一名でできる国際交流プログラムについて、可能性と限界が明らかになった。

Abstract This paper introduces the international program named “International Learning and Community Engagement”(ILCOME in abbreviation) continuing 3 years annually on fiscal year 2012, 2013, 2014. This 2015 ILCOME program contains both (1) the study visit part by Oita Prefectural College and (2) international conference part called “ILCOME2013, ILCOME2014, ILCOME2015”. Especially as above (2) international conference, this fiscal year ILCOME2015 has been held at Oita Prefectural College, at first in Japan, from 23th to 25th January. As a result of combination with a (1) study visit program we can double

¹ 大分県立芸術文化短期大学・専任講師 Tenured Senior Lecturer, Departments of Information and Communication, Oita Public Junior College of Art and Culture

and triple various fruits in education, research, regional contribution as this program utilize Social Networking Service (SNS) by introducing method of service learning.

キーワード：ソーシャルネットワーキングサービス (SNS)、短期留学、サービスラーニング、記録による資源化

Keywords: Social Networking Service (SNS), Study Visit Program, Service Learning, Creating Resources by Record Management

1. 問題の所在

本稿のねらいは、大分県立芸術文化短期大学（以下、芸文短大と略記）において2012年度、2013年度、2014年度と3年連続で実施してきた国際プログラム「International Learning and Community Engagement（略称ILCOME）」についてまとめた考察を行うことである。

ILCOMEプログラムは、毎年2月から3月にかけて、(1) マレーシア短期留学研修と呼ばれる国際交流プログラム、(2) ILCOME2013～2015と呼ばれる国際学会、という両者（短期留学と国際学会）の総称となっている。

特に後者の国際学会パートについては2014年度、これまで2年続けて、マレーシア・クランタン州のUniversity Malaysia Kelantan（以下、UMKと略記）で開催していたものを、2015年1月23日～25日に大分県立芸術文化短期大学で開催した。本ILCOMEプログラムは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を活用しながら、サービスラーニング^②という地域活動実践として実施しており、教育・研究・地域貢献において多くの成果を期待できる。それだけでなく、今回の日本での学会開催によって、基本的には東南アジアのマレーシアという遠く離れた場所をベースにするILCOMEは、決して大分県への波及効果がないわけではないこと、教員一名でできる範囲の可能性と限界が明らかになった。

以下、2節では短期留学としてのILCOME、3節では国際学会としてのILCOMEについてそれぞれ論述していきたい。

2. 短期留学としてのILCOME

(1) 実施の背景、募集手続や基礎データ

日本側の「マレーシア短期留学研修」としてのILCOME参加者数の推移は、プログラム開始以来、以下のとおりである。

年度	人数 (学科別内訳)	実施期間	参加大学
2012年度	10名(国際3、情コミ7)	2013年2月23日～3月18日	UMK(マレーシア)、PSU(タイ)
2013年度	8名(国際5、情コミ3) 社会人1	2014年2月23日～3月18日	UMK(マレーシア)、PSU(タイ)
2014年度	13名(国際8、情コミ5) 他大学4(神戸市外国語大学1、東京外国語大学3)	2015年2月23日～3月18日	UMKおよびUnisza(マレーシア)、PSU(タイ)

学内の短期留学の中では、参加人数は比較的多い方である。英語が勉強できるプログラムであることにプラスして、費用の安さもある。募集は、学内への掲示、および全学ウェブサイトでの告知によっておこなった。また補助的に、サービ斯拉ーニングのメーリングリストへの一斉送信を用いている。基本的に、ポスターの掲載内容は以下のとおりとした。

【短期留学についての基本情報】 ポスターおよび<http://jakyu.com/n-abe/>に掲載。

- ・ **場所** マレーシア・クランタン州、Universiti Malaysia Kelantan (以下、UMKと略記)。コタバルキャンパスをベースとする(Bachokキャンパス、Jeliキャンパスも使用)。昨年の例で世界遺産に指定されているペナン島、首都などの観光を含む(2012年度は首都のみの観光だった)。
- ・ **期間** 2月中の3週間(入試や卒業研究発表会など学内業務のない期間に設定)
- ・ **費用** 学生負担は13万円以内(2012年度は10万円、2013年度は14万円。海外旅行保険込み)。
全ての鉄道、航空機、現地でのバス等を含む交通費、宿泊費、会議や大学関連の諸費用などを含む。
- ・ **学生のアクティビティ**
 - (1) UMKで、英語、マレー語、マレー文化、社会調査法についての講義を受ける。
 - (2) 現地サポート学生との交流。
 - (3) マレーシア国内の主要施設、コミュニティビジネスや日系企業等を訪問し、インタビューや観察によって情報収集する。SNSを利用して、大学周辺のソーシャルマップを作成(以上を「サービ斯拉ーニング」と呼ぶ)。
 - (4) 上記の成果を国際会議(学生部会)で報告する。言語は英語。

ポスター作成と掲示のお願い、ウェブサイト作成、広報、チケットの確保など全ての作業は学生でのサービスマーケティングに準じて筆者、安倍が個人的に進めてきた。

短期留学先でのさまざまな講義、見学、公的機関や要人の表敬訪問、地域貢献の意味合いを含むサービスマーケティング活動など、具体的なプログラムの内容の検討・作成については、UMK側の日本語教員および学部長と連絡を取り合い、進めてきている。現在のところ、先方の大学では、一件のアクティビティごとに対して一名以上の教員（実行責任者）が貼り付けられている。また、大学の提供するバス3台程度（ドライバー付き）、元警察官のボディガード、公用車数台と運転手3名程度、カメラマンやコンピュータ技術者も、常時、

協力していただけるという充実した体勢のもと実施させていただいている。

第一回のポスターを掲示した後、学生から聴取したところ、実施3年目の今年は、マレーシア短期留学について、口コミの評判の良さもあった。このため、2014年度は、学生間でマレーシア短期留学への基本的な認知は得られていると仮定して、先述のポスターと差し替えてもう一枚、イメージを喚起するようなポスターを制作した（左の図を参照）^③。結果、合計33人からの直接の問い合わせを受けたため、ここから参加候補者のリストを作成した。

引率の都合、受け入れ側大学（UMK）の体勢やホテルの不安もあるため、おおよその上限を20人に達しない程度として、脚注に示すような手続きのメール送信2通^④を課した上で、参加の目的と意欲を見極め、最終的には、参加候補者を合計33人から20名に絞った。

（最終的には、それぞれの個人的な事情で2年生2名、1年生2名、他大学からの同行希望者2名を含む6名が抜け、実際に大分空港から出発予定である参加者は14名にまで減少している）。

あなたがマレーシア短期留学に参加すべき理由

- ☑ 格安の費用で英語での海外生活の経験を積むことができる！
- ☑ 世界的に有名な観光地、現地でのホームステイも体験できる！（ブルンティアン島、世界遺産の都市ベナン島ジョージタウン、クアラルンプール市内など）
- ☑ 日本語を勉強している大学生らと英語で交流して仲良くなり、学会報告の経験を積むことができる！
- ☑ 格安の物価（日本の1/3程度）で、マレー料理、中華料理、インド料理、西洋料理などの食べ物、買い物を楽しめる！

2014年10月10日（金）12時10分～12時55分
10月15日（水）12時10分～12時55分

101 講義室にて、説明会を実施します！



問い合わせ
大分県立芸術文化短期大学 安倍尚紀
E-mail : n-abe@oita-pjc.ac.jp

（2）ILCOMETプログラム、マレーシア短期留学研修部分の実績と成果

研修の目的は、広義には、サービスマーケティングによる地域貢献と教育効果であると言えるが、学生目線から、参加のメリットについてより詳しく論じてみたい。

（a）第一のメリット—英語への習熟— 第一のメリットとして、（格安で）英語を用いた海外生活の経験を積むことができる点がある。滞在中に使用する言語はすべて英語である（キャンパス内でも、英語で自由に話しかけてほしいと書かれたバッジをつけて生活す

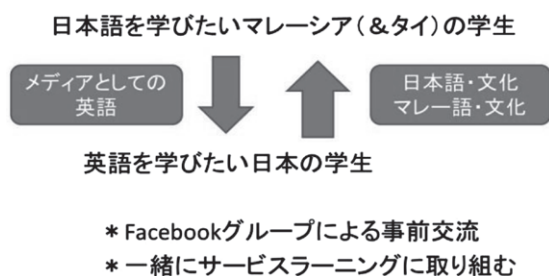


図 互恵的な関係+交流 (安倍2014、p77を改変)

ことを示している。本プログラムが互恵的であるのは、図中の通り、日本語を学びたいマレーシア(タイ)の学生^⑥コミュニティに対して、日本人である我々が、英語を中心とした語学、地域の文化や国際関係に関心を抱いて接触していくからに他ならない^⑦。

日本側のマレーシア短期留学研修の参加者の視点だけから言えば、いわば、日本語・日本文化、マレー文化やマレー語、現地学生らと一緒に実施していくサービ斯拉ーニング活動を触媒(Catalyst)として、共通メディアとしての英語を鍛錬していく仕組みが整っている。具体的には、学生にとって、英語を用いて講義を受講し、現地のフィールドでサービ斯拉ーニングを実践し、友人に日本文化や日本語を教え、現地の文化を学んでいくという経験になる。

さらには、プログラムプログラム実施の事前/期間中/終了後にも、Facebookを中心とするソーシャルネットワークサービス(SNS)メディアを活用したことも、良い効果を生み出した。SNSを通じて、集まり、日常的に交流をはかることにより、3国間の国公立大学の学生たち深く交流できる関わるプログラムになっている。実際に、英語、補助的に日本語を用いて、学生同士の長期的な関係を維持している様子が多く見受けられる。

(b) 第二のメリット—マレー文化・イスラム文化への習熟— 第二のメリットとして、マレー文化・イスラム文化への習熟がある。これはもちろん、世界遺産(2012年度を除く)、首都などの観光地、そしてクランタン州の文化に浸りきって生活し、学ぶことによってもたらされる。

参加学生には「初めての海外旅行がマレーシア」という学生が少なくない。また、安倍(2014)で詳細に考察したが、UMKがあるクランタン州、Uniszaがあるトレンガヌ州は、両者ともイスラム教の盛んな地域である。人口の9割がマレー系マレーシア人(先住少数民族を除くと全員がイスラム教徒)であるクランタン州、トレンガヌ州それぞれの国立大学でマレー文化を学ぶメリットは大きい。

周知の通り、マレーシアは、英語を公用語とする東南アジア第二位の経済大国であるばかりか、極めて親日的な国であるため、今後の日本経済・国際関係にとっても重要な国であることは言を俟たない。また、日本にはなかなか理解することができないが、世界で2番目に多いイスラム教徒(16億人)の文化に親しみ、生涯の友人を得るきっかけとなる。

2012年度(ILCOM2013)、2013年度(ILCOM2014)、2014年度(ILCOM2015)の詳細

る)。事前に教科書も配布する^⑧。

そうした中で、通常の語学留学(英語)においてメリットを享受するのは、第二外国語として英語を学ぶ留学生のみである。ところが、通常の語学留学が持つメリット以上に、本プログラムには独自の特徴がある。それが左の図(「互恵的な関係+交流」)である。「互恵的な関係+交流」とは、本プログラムが、単なる一方通行の留学プログラムではないこと

細なプログラム内容を脚注に掲載しておく^⑧。特筆すべきは、日本に関係ある歴史的痕跡についてである。旧日本軍が上陸したPantai Sabakや戦争記念博物館だけでなく、コタバル市から少し離れると、マチャン町 (Majlis Daerah Machang) クアラ・クライ町 (Majlis Daerah Kuala Krai・旧イギリス軍がマレーシアから撤退した地) 等の旧イギリス空軍跡、日本軍の武器庫跡などが時には生々しい痕跡を発見できることである。時には、当時の兵士が使っていた装備などがそのまま見つかることもある。

(c) 第三のメリット—国際学会での学生報告と、それに付随するサービスラーニング— マレーシア短期留学に参加する日本側の学生は、英語でのプレゼンテーションを2種類ほど作成する必要があり、複数回の報告を行う。

第一は、渡航前から役割分担し、日本についてさまざまな側面から紹介する英語のプレゼンテーションである。パワーポイントで10分程度のプレゼンは、書道、柔道、スポーツ、舞踊やダンス、出身地の市町村や県、祭りや伝統行事などと、多岐に渡るテーマで参加者

個々人が準備する。到着後、大規模な講義、観光局など公的機関への表敬訪問時など、報告の機会は何度かある。

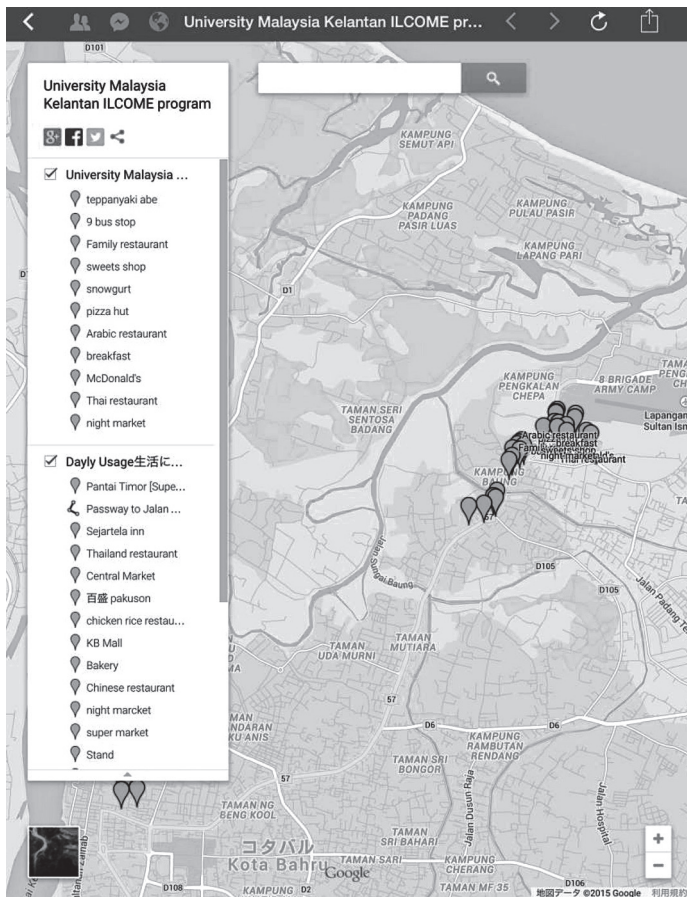
第二に、これとは別に、本プログラムが学生の成長のためのハードルとして最重視しているのが、現地で行うサービスラーニングの成果を素材として、滞在の最後に国際学会でおこなう報告である。これまでのところ、サービスラーニングの主題は「クランタン州の振興 (How Can You Contribute to Promotion of Kelantan?)」としておこなってきた。

左の写真は、Facebookページとして作成された「くらんたんみつけた」である^⑨。

サービスラーニングや現地のアクティビティに従事する中で、日本、マレーシア、タイからの参加者は、さまざまな現地主要施設を訪問し、交流をはかる^⑩。UMKの学生が単独行動するふんには、それらはクランタン州の何

気ない日常風景かもしれない。しかし、UMKの学生にとっても、日本やタイの参加者とともに歩き、交流しながら、必要に応じて質問に答えながら見直す日常の風景となれば、少し異なって見えてくるだろう。クランタン州の外部からくる参加者は当然ながら、ランドリーやレストラン、書店やスーパーマーケットなどを探すところから滞在生活を始める。したがってまずは、これらの写真や記事をSNS (現在のところFacebook) に【位置情報付





Facebook上の写真や書き込みまでも閲覧することができるというわけである。

(3) ILCOMEプログラム、マレーシア短期留学研修部分の成果やパブリシティ等

安倍 (2014) にも記録したように、本ILCOMEプログラムの、マレーシアでの反響は大きかった。何度か全国放送のTV番組、全国紙に掲載される等であるが、参加学生にとっ



ては取材を受けることもまた学びにつながる。メディアの立ちふるまいを間近で見て、視線を受け、質問に対して考え、英語で答える必要がある特別な体験だからである。ここでは、2014年の記事を一つ¹²⁾、2013年の記事を三つ、註に引用しておく¹³⁾。

2014年9月時点で、UMK学内の入口ゲート前には、2012年度に実施したILCOME2013の記念写真がカラーの壁画パネルとして飾られている。写真に写っているうち3人が、

【投稿してもらおう。また時には、インタビューや観察によって収集した情報をもとに、こうした投稿を行うときもあるだろう。

さて、次に、これらの投稿を、大学周辺のソーシャルマップに落としこんでいく段階だ。右の図はこのために用意したグーグルマップのページ「University Malaysia Kelantan ILCOME program」である¹¹⁾。

これらの写真や記事と紐付けしながら、マップ上に位置情報を打ち込んでいく。まとまってきたら、サブカテゴリーを作って整理していく。

閲覧者は、通常のGoogle mapの上で、地図の縮尺を自由に拡大縮小したり、あるいはカテゴリから興味のあるポイントを選択したりして、詳細な場所を確認した上で

ILCOM2014においてUMKを再訪しており、日常的にも学生同士の交流をもっている¹⁴⁾。

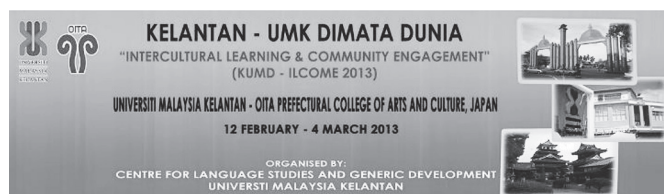
この壁画の存在からUMK側にとって、本プログラムが多方面で活用されていることがわかる¹⁵⁾。次節に詳しく見る2014年度のILCOM2015では、構築した関係を継続・発展させるべく、これまでとは逆向きに、マレーシアから日本への訪問を実現させるため、産業・ビジネスレベルでの交流を図るために教員や学生を招く計画を立てており、2014年度の大分県での年次大会開催へとつながった。

3. 国際学会としてのILCOM

前節までに見てきた短期留学としてのILCOMは、マレーシアではUMKが受け入れ校となり日本語専攻やビジネス、アントレプレナーシップ専攻の多くの教員達が実施に協力してくれている。日本側では安倍個人によるサービスラーニングとして、企画・募集・実施をしてきた。日本側の体制整備と授業としての位置づけは今後の課題である。

一方、国際学会としてのILCOMについては、実施主体をAssociation for Intercultural Learning and Community Engagementという国際的な学術団体によっており、研究テーマとして、地域貢献 (community engagement) と文化を越えた学び (intercultural learning) を掲げている。東南アジアと東アジア、を中心とするおおよそ100人程度の大学教員からなる緩やかな組織体勢で運営している¹⁶⁾。

(1) International Colloquium of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOM2013) の記録



国際学会 “Intercultural Learning and Community Engagement 2013” (プログラム全体と同じ呼称のILCOM 2013) は、2013年2月26日から28日にかけて、UMK、Bachokキャンパスにて開催された。

学生セッションは2月27日に開催。参加した学生10名は、UMK学生10人とのペアで合計4人ずつのチーム (全体合計20人の報告者) を作り、5つの領域 (観光、教育、食、ファッションと産業) を担当した (注にて詳述¹⁷⁾)。

国際会議の専門家パートでは、さまざまな所属大学から来訪した報告者・参加申し込みは、マレーシア、タイ、カナダ (シンガポール大学)、イラン、インド、台湾、メキシコとナイジェリア (飛行機の都合で当日は参加できず) と多国籍にわたった。以下は詳細なプログラムである。

Conference Days: from 26rd Feb. to 28rd Feb.2013

location: University of Malaysia Kelantan, campus Bachok(16070 Bachok, Kelantan, Malaysia)

On 27th Feb., 2013, Wednesday: Day 2 of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME2013). (<http://sociology.kakoku.net/>)

Under cooperation between UMK students and Oita students, we gave 5 presentations and academic discussions. All presentations aimed at further promotion of Kelantan by using internet in multiple language [Japanese/English/Malay]

1. “Education in Kelantan.”, Presented by Misaki Ogata, Risako Kawasaki, Adam Chew, Nur Asmirza.
2. “Fashion in Kelantan.”, Presented by Yuna sakai, Ayame Harada, Calvin, Hani Hakim
3. “Foods in Kelantan.”, Presented by Takako Kosaka, Hasumi Fukumtsu, Mujaddid Karim, Liew Chew Ping
4. “Sightseeing in Kelantan.”, Presented by Megumi Matsushima, Chie Arita, Anis Naquiah, Fiezlyn Long.
5. “Industry in Kelantan.”, Presented by Kaori Abe, Kaho Ishii, Wan Nurul Farahah Wan, Nik Zulfieka Jue

28th February 2013(Thursday), Day 3 of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME2013)

Session 1

Venue: Bilik Seminar 2/ Seminar Room 2

Moderator : Prof. Dr. Farok bin Zakaria

1. Wee Yu Ghee(UMK) (, Raja Norliana, Wan Faridatul Akmal, Eni Norani) , “Cross-Cultural Learning Experience Through Social Enterprise for Economic Development Program”
2. Abdul Aziz Shuaib(UMK) , “The Kelantan Traditional Arts as Indicators of Genius Loci”

Session 2

Venue: Bilik Seminar 2/ Seminar Room 2

Moderator : Dr. Balazs Huszka

1. Hum Chan (UMK, Language Studies), Ivan Zahar (UMK, Creative Tech.) ,“Breakthrough the Cultural Influences on Second Language Acquisition: Inspired by Plato’s Cave Theory”
2. Kenji Oda (Prince Songkla University) , “The gender differences in the language attitudes of the Malay speaking population in Thailand- A case study among the Malay speaking students in Prince of Songkla University”
3. Prof. Dr. Farok Zakaria (UMK), “Japanese and Malaysian University Education: A brief analysis of commonalities and differences”

Session 3

Venue: Bilik Seminar 2/ Seminar Room 2

Moderator : Dr. Balazs Huszka

1. Prof. Dr. Arun Kumar (Department of English, Chaudhary Charan Singh University) ,“Need for Radical Reforms: Job Oriented and Vocational Programmes of Study for the Underprivileged in Asian Countries”
2. Soraya Pour Anvari (Azad Univ. of Maragheh, Iran) “Cultural intelligence, competitive advantage for administrators”
3. Tadasuke Tanimura (National University of Singapore) , “Understanding Thai culture from the Japanese perspective”
4. Mohamad Sukor Bin Abdul Karim (Universiti Utara Malaysia:UUM) , “Level of Assimilation among the Chinese Ethnic Group in Kelantan.”

Session 4

Venue: Bilik Seminar 2/ Seminar Room 2

Moderator : Dr. Balazs Huszka

1. Yohan Kurniawan ((UMK)), (Hishamuddin Md. Som, Nur Azuki Yusuff), “The

Analysis of Temiar Children's Quality of Life Based on Level of Health: A Descriptive Study Among Temiar Children, Kuala Betis, Gua Musang”

2. Naoki DN Abe (Oita Prefectural College of Arts and Culture, Japan) ,“Sharing Large-Scale Open System for Recording Regional Information as Social Resource: Yet Another Phase of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME2013)”
3. Balazs Huszka (UMK), “Some Observations on the Sound System of Gujarati”
4. Siti Bahirah Saidi (UMK), “Influence of Experiences, Beliefs, and Prejudices on Connotative Meaning”

Session 5

Venue: Bilik Seminar 2/ Seminar Room 2

Moderator : Dr. Balazs Huszka

1. Julia Tan Yin Yin, Mika Kitahara (UMK), “Cultural Elements in Festival Advertisements: A Simple Comparison between Malaysian Chinese and Native Japanese Cultures”
2. Hassan Maliwu (UMK), “Hui(回), the Semantic Concept in Chinese”
3. Steffen Wyngra (Guest from German),“Cultural Experience of a German high school leaver in Kota Bharu, Kelantan”

(2) International Colloquium of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME2014) (<http://jakyo.com/index.cgi?page=ILCOME2014>)の記録



国際学会“Intercultural Learning and Community Engagement 2014” (ILCOME 2014) は、2014年3月10日、UMK、Bachokキャンパスにて開催された。報告は学生部会のみでの縮小実施とした。

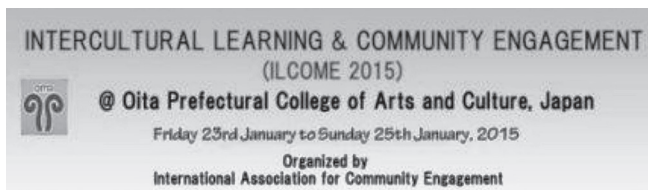
On 10 March 2014 (MON)

location: PBI Meeting Room, University of Malaysia Kelantan, campus Bachok(16070 Bachok, Kelantan, Malaysia)

Presenters and Participants from Japan:

IIO KAORI, YOSHIDA MAYUKO, HIGASHI YUKI, NAKASU SHIORI, CHIE ARITA, FUKUMITSU HASUMI, MARIKO KASHIMA, ABE KAORI, OHARA MASAKO

(3) International Colloquium of Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME2015) (<http://jakyu.com/index.cgi?page=ILCOME2014>)の記録



On 23rd January (Friday) to 25th January.(Sunday), 2015

location: Lecture Hall, 101, Oita Prefectural College of Arts and Culture, Departments of Information and Communication 1-11 Ueno-ga-oka-Higashi, Oita city (870-0833 Oita Japan)

学外からの報告者17名に加えて、学内からの参加は合計18名だった。内訳は、1年生13人(国際8、情コミ5)、2年生4名(国際3、情コミ1)、オープンカレッジ受講者1名である。役割分担をし、報告者との英語でのコミュニケーションを図るよう、以下のような役割を設定した。(1) 司会 (Master of Ceremony)、(2) 会場係&タイムキーパー (Environment & Timekeeper)、(3) 受付 (Reception)、(4) 個別アテンド (Support for Presenter) の4つである[®]。

2014年10月から事務局とコンタクトをとって施設等の準備をはじめていた割には段取りが悪く、11月末の時点でビザ取得等に全学のバックアップが得られないことが判明し、研究者としての安倍個人の事業として実施することになってしまった。かなりの人数制限を課したため、例年の50人規模とは異なって、学生を含めて30人規模での開催となった。海外からの報告者は20人程度として申し込みのお断り (rejection) をすることになったが、参加希望の人数自体は100名を超えており、メールと電話の対応に追われることになった。参加国は、マレーシアが一番多く、ついで韓国、タイ、インド、日本の大学に勤務するアメリカ国籍の研究者も2名いた。日本人研究者は筆者1名だけで、コミュニケーションは

全て英語でおこなった。

Conference Supporters from Japan:

IWANAGA AI, KAWAMURO WAKUMI, ISHIZAKI MIZUKI, YOSHINOUCHI NATSUMI, WADA MAHO, ETO MANA, SHIGEMATSU YUKI, OYA MIKI, KOCHO MANAMI, SHOJI MARINA, ONO HIDETOSHI, SHIMIZU MIHO, KAWABATA MIKA, MINOURA RIE, KOYAMA KADU, WAKAFUJI AYUMI, YANAGIDA MACHIKO, OHARA MASAKO

2nd day (24th Jan. Saturday)

Opening Ceremony [at Lecture Hall]

[Opening Remarks by Naoki DN Abe (Oita Prefectural College of Arts and Culture)]

Session “Management and Business Studies in Southeast Asia and Japan”+ Discussion for future collaboration [at Lecture Hall]

1. “Readiness for ASEAN Economic Community of SMEs in Phayao Province, Thailand”
Dr. Bungon Sawatsuk (University of Phayao, faculty of management and information sciences, Phayao, Thailand)
2. “Corporate Social Responsibility, Customer Satisfaction, Corporate Image and Marketing sustainability model among Biomass Energy Power, Thailand”,
Mr. Nititorn Wongchattha (UniSZA, Ph.d (Management) Candidate, Kuala Terengganu, Malaysia)
3. “University Social Responsibility, Organizational Image, and Sustainable Development Model among Hariphunchai Campus, Chiang Mai University, Thailand”
Mr. Anukul Chawaphong (ChiangMai University, head of academic service at Hariphunchai Center, Chiang Mai, Thailand)
4. “Practice of a Service Learning attached with Small Scale Business in Oita, Japan”
Dr. Naoki DN Abe (Oita Prefectural College of Arts and Culture, Oita, Japan)

Facilitator and Moderator:

Dr. Kwan Sanguanserm Sri (Associate Dean for Administrative affairs and Student Affairs, School of Education, University of Phayao, Phayao, Thailand)

Dr. Naoki DN Abe (Oita Prefectural College of Arts and Culture, Oita, Japan)

Lunch Time and Communication

Keynote Presentation [at Lecture Hall]

Professor. Dr. Mahadzirah binti Mohamad (UniSZA, Deputy Vice Chancellor of Academic and International, Kuala Terengganu, Malaysia)

Professor. Dr. Farok bin Zakaria (UMK, Director, Centre for Language Studies and Generic Development, Kelantan, Malaysia)

Session “Education and Community Engagement in Southeast and East Asia” [at Lecture Hall]

1. “Challenges faced by Indian IT service providers on Global project roll-out to Japanese customer(s) ? A perspective of relative differences and similarities in Culture, Language and core management styles”, Mr. Sreenivasan Rajendran (Consultant, Infosys Limited, India, working in Osaka Japan)
2. “Cyberbullying and Anti-Cyberbullying in Online Communities” Dr. Hee-Woong KIM (Underwood Distinguished Professor, Yonsei University, Graduate School of Information)
3. “Religion and Community Engagement in Malaysia”, Dr. Myengkyo Seo (Department of Malay-Indonesian Studies, Hankuk University of Foreign Studies, Seoul, Korea)
4. “University/NGO cooperation on small-scale education projects: improving financial support and livelihood for orphanage in Myanmar”, Dr. Marshall Smith (Associate Professor, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Life Sciences, Obihiro, Japan)
5. “A Vision Towards Global Education Outreach”, Dr. Yaser Qudaih (Assistant Professor, Kyushu Institute of Technology, Department of Electrical Engineering and electronics, Kitakyushu, Japan)
Dr. Yasunori Mitani (Professor, Kyushu Institute of Technology, Department of Electrical Engineering and electronics, Kitakyushu, Japan)

Facilitator and Moderator:

Professor. Dr. Mahadzirah binti Mohamad (UniSZA, Deputy Vice Chancellor of Academic and International, Kuala Terengganu, Malaysia)

Prof. Heon-Yong Jung, Ph.D (Dean of Graduate School, Namseoul University, Seoul, Korea)

Mr. Nititorn Wongchattha (UniSZA, Ph.d (Management) Candidate, Kuala Terengganu, Malaysia)

Session “Regional Development linked with Education Program in Intercultural Style”+ Discussion for future collaboration [at Lecture Hall]

1. “Reflections of intercultural learning and community engagement and effect to student’s learning processes”, Professor. Dr. Farok bin Zakaria (UMK, Director, Centre for Language Studies and Generic Development, Kelantan, Malaysia)
2. “Sharing modules of intercultural engagement”, Ms. Mika Kitahara, UMK, Senior Teacher, Centre for Language Studies and Generic Development, Kelantan, Malaysia
3. “What to expect in environment in Malaysia, Food in Malaysia and Cultural and religious diversity”
SITI ROHANI binti AHMAD (student from UMK)
CHOO OOI QUN (student from UMK)
JAYALETCHUMI A/P RAMAN (student from UMK)

4. 結びにかえて

短期留学と国際学会とを含むILCOMEプログラムについて論述してきた。少し距離をとって、これらを「交流マネジメント」としてみた場合、その成果は大きい。国境を超えて多くの学生・研究者がどこかの地域に集まり、文化間の違いを超えて教育的・学術的な交流をおこなう。

特に2014年度は、これまで2年続けて、マレーシア・クランタン州のUniversity Malaysia Kelantan (UMK) で開催していた国際学会パートを、大分県立芸術文化短期大学で開催することになった。このILCOME2015のために、研究報告・出版を目的として海外から多くの研究者が来日し、3日間以上にわたって大分県（大分市・別府市）に滞在したわけである。直接の会話、または事前・事後のメール等で交流する中で判明したのだが、報告者のほぼ全員が、大分県という土地に強い関心を抱いて来ており、観光にもショッピングにもかなりの時間と金額を割いて、楽しんで帰国している。地域への好影響を考えると、ある程度大規模で実施した場合、これをグリーンツーリズムやコンテンツツーリズムなどと同様に、「学会ツーリズム」と呼ぶことができよう。不備が多く、学内には迷惑をかけてしまったが、教員一名でできる範囲の可能性と限界、今後の課題が明らかになった。

また、本ILCOMEプログラムは、短期留学・国際学会ともに、ソーシャル・ネットワークキング・サービス（SNS）を適宜、活用しながら実施している。結果として、参加学生や報告者同士の交流は続くため、教育・研究・地域貢献において多くの成果を期待できる。個人ベースで進めている大部分について、より仕組みを整備していき、メリットを見えやすくして受益者を増やしていくことが今後の課題である。

注

① サービスラーニングとは、大学での学習や特技を生かし、地域社会に貢献する活動を行う教育プログラムのことである。この活動実践において大分県立芸術文化短期大学は、文部科学省平成21年度大学教育推進プログラムに選定された。

② サービスラーニングとは、大学での学習や特技を生かし、地域社会に貢献する活動を行う教育プログラムのことである。この活動実践において大分県立芸術文化短期大学は、文部科学省平成21年度大学教育推進プログラムに選定された。

③ 逆に、滞在先のUMK側における現地サポート学生の募集では、日本語を履修している学生（副専攻として）を対象に、講義中にアナウンスしたり、シンプルな掲示物を貼りだしたりする程度である。本プログラムを受けて2013年度から、UMKでは学内に日本語サークルが立ち上がり、自主的に活動を開始している。

④ 2014年度は、正式な参加表明までの手順を以下のようにした。

(1) (後に同意書を貰う前提で、) 保護者に相談して許可を得る。

(2) メール① 「参加にあたって期待している内容・抱負」を書く。場合によっては直接、相談に来てもらう（期待はずれやすれ違いを避けるため）。

(3) 本人と教員との間で「参加するとよさそうだね」という合意が得られたら、急いで、パスポートを取得する（持っていない人）。

(4) メール② パスポートの記載通りに、以下の情報を送信。これを確認して、返事を送った時点で参加確定となる（チケットなどを手配し始める）。

「ローマ字氏名、生年月日、パスポート番号、パスポート有効、現住所、保護者名、保護者の住所と電話番号」。

尚、「先方の大学（UMK）からは、貴重な機会ということで「積極的に大学生と交流してくれる人」に優先的に来て欲しいと言われている」という但し書きをつけている。

⑤ 英語力の向上とマレー文化入門として、以下の2冊を人数分、配布している。

森沢洋介、2006、『どンドン話すための瞬間英作文トレーニング(CD BOOK)』、ベレ出版
戸加里康子、2010、『旅の指さし会話帳〈15〉マレーシア(ここ以外のどこかへ)』、情報センター出版局

⑥ マレーシア側（UMK）では、多くの参加学生が、日本語を第二専攻として履修しており、タイ側（PSU）では、ほとんどの学生が日本語を第一専攻として履修している。UMKでは100人以上もの学生が日本語コースを履修している。PSUの学生は、英語よりも日本語のほうが得意な学生も多い。パッターニー市にあるキャンパスから北方の国境を超えて、数泊の短期間で来訪することがほとんどである。

⑦ 主にUMK側では、講義の都合などを勘案しつつ、毎日、交代で常に学生による10人程度のガイドグループが、日本人留学生と交流し、親交を深めることになる。2008年の専攻開設以来、UMKでは300人以上の学生が副専攻として日本語を専攻しており、学生の間では人気科目となっている。それだけに、特に同世代の日本語のネイティブスピーカーとの

直接の交流が切望されていたという前提があった。

⑧

TENTATIVE PROGRAM																
KUMD - ILCOME 2013 (12 FEB 2013 - 04 MAC 2013)																
UMK - OITA GEITAN (Oita Prefectural College of Arts and Culture, Japan)																
DAY	DATE	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
DAY1	12 FEB 2013 (TUE)	Arrival/Registration of Participants (Pn.Kavajit, Pn.Hajar)														Opening/Welcome Dinner (Tn. Hj. Wan Supian Sor)
DAY2	13 FEB 2013 (WED)	JOM BBM DK26 (Cik. Khuzaiton)	City Campus Tour (Cik. Linira)	Kelantan Tourism Dept. (Pn.Thana)	Ice Breaking (Dr.Abe) DK26											Trip to Wakaf Che Yeh (Dr.Nik Yusri)
DAY3	14 FEB 2013 (THU)	JOM BBM DK26 (Cik. Khuzaiton)	Kota Bharu City Tour (Dr.Nik Yusri)	Free and easy												Group Discussion (Dr.Abe) DK26
DAY4	15 FEB 2013 (FRI)															Japanese students stay at Kota Sri Mūtira (Dr.Abe)
DAY5	16 FEB 2013 (SAT)															Free and Easy
DAY6	17 FEB 2013 (SUN)															Group Discussion (Dr.Abe) DK20
DAY7	18 FEB 2013 (MON)															Group Discussion (Dr.Abe) DK20
DAY8	19 FEB 2013 (TUE)															Malaysia x Japan movie night (Cik Kitahara) DTK
DAY9	20 FEB 2013 (WED)															Free and Easy
DAY10	21 FEB 2013 (THU)															Homestay at Pantai Sri (Pn.Wan Tik)
DAY11	22 FEB 2013 (FRI)															Yamato, the Drummers of Japan, Malaysia Tour 2013 at HUSM (Cik Kitahara)
DAY12	23 FEB 2013 (SAT)															Free and Easy
DAY13	24 FEB 2013 (SUN)															Group Discussion (Dr.Abe) DK20
DAY14	25 FEB 2013 (MON)															Group Discussion (Dr.Abe) DK20
DAY15	26 FEB 2013 (TUE)															Free and Easy
DAY16	27 FEB 2013 (WED)															Escursion 1 (Dr. Yohan)
DAY17	28 FEB 2013 (THU)															Free and Easy
DAY18	1 MAC 2013 (FRI)															Fun with Japanese (Cik Mika)
DAY19	2 MAC 2013 (SAT)															Free and Easy
DAY20	3 MAC 2013 (SUN)															Closing Ceremony (Tn. Hj. Wan Supian Sor)
DAY21	4 MAC 2013 (MON)															
DAY22	5 MAC 2013 (TUE)															
DAY23	6 MAC 2013 (WED)															

TENTATIVE PROGRAM
KUMD – ILCOME 2014 (22 FEB 2014 – 11 MAC 2014)
UMK X OITA GEITAN (Oita Prefectural College of Arts and Culture, Japan)

TRIP1	18 FEB 2014 (TUE)	7:30	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	HOTEL
TRIP2	19 FEB 2014 (WED)	Oita – Fukuoka FUK 12:10 – KIX 13:10 (MMI154)															KL Central
TRIP3	20 FEB 2014 (THU)	KUL 8:35 – PEN 9:30 (AK6124)															Times Square
TRIP4	21 FEB 2014 (FRI)	Sightseeing in Penang															Batu Ferringgh
DAY1	22 FEB 2014 (SAT)	Sightseeing in Penang															George Town
DAY2	23 FEB 2014 (SUN)	Move to PC & Breakfast	Check in & Registration	Welcome Lunch (BMP & Basil Leaf)	Rest	Orientation (Basil Leaf)	City Campus Tour	Dinner, Free & Easy	KBR 22:55 – KUL 23:55 (AK6447)	Back to Hotel	Sejahtera Inn						
DAY3	24 FEB 2014 (MON)	Move to PC & Breakfast	Malay Language Course (BMP)	Excursion in Kota Bharu	Industry Visit with AFS	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY4	25 FEB 2014 (TUE)	Move to PC & Breakfast	English Language Course (MKMBHS1)	Gamelan (Studio Kebudayaan)	Lunch (Bilik Mesyuarat Perdana)	Check in & Orientation	Wayang Kulit (Gelanggang Seni)	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	MIN HOUSE CAMP							
DAY5	26 FEB 2014 (WED)	Breakfast	Kampung Excursion	Malay Food Cooking, Lunch & Rest	Sports, Game, Kite, Bee etc.	Dinner, Free & Easy	Firefly Tour	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY6	27 FEB 2014 (THU)	Breakfast & Back to PC	English Language Course (MKMBHS1)	Lunch & Rest	Gamelan (Studio Kebudayaan)	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY7	28 FEB 2014 (FRI)	Move to Campus Bachok & Breakfast	Orientation & Japanese Language Exchange (Kg. Kubang Telaga)	Japanese Language Exchange (UMK Campus Bachok)	Orientation & Japanese Language Exchange (Kg. Kubang Telaga)	Dinner, Free & Easy (Kg. Kubang Telaga)	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy (Kg. Kubang Telaga)	Back to Hotel	Kubang Telaga							
DAY8	1 MAC 2014 (SAT)	Breakfast (Kg. KT)	Orientation & Japanese Language Exchange (Kg. Kubang Telaga)	Japanese Language Exchange (UMK Campus Bachok)	Orientation & Japanese Language Exchange (Kg. Kubang Telaga)	Dinner, Free & Easy (Kg. Kubang Telaga)	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy (Kg. Kubang Telaga)	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY9	2 MAC 2014 (SUN)	Move to Jeli Campus & Breakfast	Orientation & Japanese Language Exchange (Jeli)	Orientation & Japanese Language Exchange (Jeli)	Orientation & Japanese Language Exchange (Jeli)	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Jeli Inn							
DAY10	3 MAC 2014 (MON)	Back to City Campus & Breakfast	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Perhentian Island							
DAY11	4 MAC 2014 (TUE)	Back to City Campus & Breakfast	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY12	5 MAC 2014 (WED)	Back to City Campus & Breakfast	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY13	6 MAC 2014 (THU)	Back to City Campus & Breakfast	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY14	7 MAC 2014 (FRI)	Move to PC & Breakfast	Arrival of PSU Students & Lunch	Orientation & Historical Site Visit	Orientation & Historical Site Visit	Dinner & Rest	Back to Hotel	Dinner & Rest	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY15	8 MAC 2014 (SAT)	Move to PC & Breakfast	Cultural Exchange with PSU	Lunch	Excursion at Malaysia/Thailand Border	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY16	9 MAC 2014 (SUN)	Move to PC & Breakfast	Students' Presentation (PBI Meeting Room, Bachok)	Lunch	Preparation for Students' Presentation	Closing Ceremony (DTK, Bachok)	Back to Hotel	Closing Ceremony (DTK, Bachok)	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY17	10 MAC 2014 (MON)	Move to Bachok & Breakfast	BON VOYAGE KBR 09:55 – KUL 10:55 (AK6433)	Preparation for Closing Ceremony & Rest	Preparation for Closing Ceremony & Rest	Closing Ceremony (DTK, Bachok)	Back to Hotel	Closing Ceremony (DTK, Bachok)	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY18	11 MAC 2014 (TUE)	Back to City Campus & Breakfast	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							
DAY19	12 MAC 2014 (WED)	Back to City Campus & Breakfast	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Lecture Social Mapping by Dr. Abe	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Dinner, Free & Easy	Back to Hotel	Sejahtera Inn							

TENTATIVE PROGRAM
KUMD – ILCOME 2015 (23 FEB 2015 – 18 MAC 2015)
UMK X OITA GEITAN (Oita Prefectural College of Arts and Culture, Japan)

	7:30	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
TRIP1	23 FEB 2015 (MON)									Oita – KIX13:00					
TRIP2	24 FEB 2015 (TUE)														
TRIP3	25 FEB 2015 (WED)														
TRIP4	26 FEB 2015 (THU)														
TRIP5	27 FEB 2015 (FRI)														
DAY1	28 FEB 2015 (SAT)														
DAY2	1 MAC 2015 (SUN)														
DAY3	2 MAC 2015 (MON)														
DAY4	3 MAC 2015 (TUE)														
DAY5	4 MAC 2015 (WED)														
DAY6	5 MAC 2015 (THU)														
DAY7	6 MAC 2015 (FRI)														
DAY8	7 MAC 2015 (SAT)														
DAY9	8 MAC 2015 (SUN)														
DAY10	9 MAC 2015 (MON)														
DAY11	10 MAC 2015 (TUE)														
DAY12	11 MAC 2015 (WED)														
DAY13	12 MAC 2015 (THU)														
DAY14	13 MAC 2015 (FRI)														
DAY15	14 MAC 2015 (SAT)														
DAY16	15 MAC 2015 (SUN)														
DAY17	16 MAC 2015 (MON)														
DAY18	17 MAC 2015 (TUE)														
DAY18	18 MAC 2015 (WED)														

- ⑨ 具体的な作業は、二段階に別けておこなった。第一に、Facebookの非公開グループを開設し、サービslラーニング参加者（教員、学生、学外協力者）が加入。活動内容を打合せ情報共有できる環境を整えている。第二に、Facebookページ「くらんたんみつけた」の開設である。記念写真の共有、取材風景や、サービslラーニング中での小さな気づきを投稿できる場所として。学生10名以上、教員2名で管理権限を持ち、いつだれが投稿してもよいルールとしている。30人以上ファンがいるFacebookページであるため、Facebook社から提供されているページ解析機能「インサイト機能」をアクセス解析や記事への反応の分析のために活用している。
- ⑩ 詳細はプログラムにあるが、クランタン州内の各種の観光地の他に、市役所や観光局、ホームステイ、貧困地域での交流、日系企業訪問（ローム・ワコー社・本社岡山県笠岡市）、公的機関の表敬訪問などが主である。
- ⑪ 専用の地図は、容易に作成することができる。ILCOMEプログラムでは、汎用性の高さとして誰でも利用しやすいことを重視して、Google Mapを用いることにした。
(https://www.google.com/maps/d/edit?mid=zrGM24m_vIps.kK-A3G4xYAAQ)

⑫



(Daily Sinar Malaysia 5 March 2014)

<http://www.sinarharian.com.my/politik/penuntut-jepun-kagumi-adat-budaya-kelantan-1.257040>

⑬



(2013年2月13日Pelajar Jepun teruja pelajari budaya tempatan, UtusanMalaysia紙muka22)



(2013年 3 月12日Hasrat mahu datang lagi, UtusanMalaysia紙 muka30)



(2013年 4 月25日UMK promosi Kelantan, Berita Harian紙muka30)

- ⑭ ILCOME2014プログラム参加者の内2名は、2014年4月から日本国内の国立大学に正規留学生として来日して日本の学生と交流を続けている。
- ⑮ 幸いなことにUMK側では、ILCOME2013プログラムの後、支援くださった在マレーシア大使館その他の協力もあり、財団法人日本国際協力センター（JICE）が主催してASEANの10カ国から学生を日本に招待するJENESYS2.0プログラム（21世紀東アジア青少年大交流計画）に前代未聞の17人もの学生が採用され、日本の土を踏むことになった。
- ⑯ 特に年会費等は徴収せず、毎年 of 年次大会や共同研究など、アカデミックな活動をベースとして展開している。東南アジア事務局代表は、Director Professor, Farok bin Zakaria（UMK）、北アジア事務局代表 安倍尚紀（大分県立芸術文化短期大学）。2012年度には国際交流基金の支援を受け、日本国内で出版物が出せるような仕組みを整えている。
- ⑰ 27日の午前中には、UMKの学生と大分の学生が協力して、合計5つのプレゼンテーションを準備した。報告のテーマは、日本語／英語／マレー語を使ったインターネット上でのクランタンのPRについて。この報告が、この国際会議にクランタンの外から来たお客さんにとって、ガイドになればよい、という程度の期待だったが、前日まで準備に時間をかけただけあって、なかなかしっかりした報告&質疑応答が展開された。
- ⑱ 以下のように、司会、会場係&タイムキーパー、それぞれ、統括リーダーを1名ずつ決

定し、当日にのぞんだ。使用言語は全て英語とした。

- ・司会 (Master of Ceremony: 赤色の名札。金曜日夕方、土曜日の午前と午後、それぞれ2名ずつくらい) は、だいたいのアナウンス原稿を用意、進行、時間管理をする。
- ・会場係&タイムキーパー (Environment & Timekeeper: 青色の名札。時間ごとに区切ってそれぞれ4名くらい) は報告時間を図り、プログラムをチェック。控え室 (飲み物設置)、その都度、必要な貼り紙、緊急の貼り紙等を含む会場内の整備と問題解決をする。「会場内の環境整備係」
- ・受付 (Reception: オレンジ色の名札。3名) は、(1) 報告者が来たら、参加リストにチェック。参加費を徴収し、リクエストに沿って、レシートを発行する。配布物 (パッケージ) を手渡す。(2) 主な仕事は開催前に集中しているが、途中から来られるゲストに対応。また常時、質問に応じて、費用面やプログラムについての説明をする「何でも質問対応係」。
- ・個別アテンド (Support for Presenter: 緑色の名札。報告者ごとに交代で2名ずつくらい) は、(1) 自己紹介とアテンドの説明をする。(2) 基本的に、報告者の近くにいてケアしてあげる役割。コピーサービスや飲み物・アイスクリームの購入等の買い物、両替を手伝う。(3) 報告者が帰る時は、一言、知らせてもらう。「担当報告者に親切する係」。

参考文献

- 安倍尚紀、2013、「SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の特性を活かした学生参加型の地域連携教育——24時間動き続ける自律空間の記録管理——」『大学教育と情報』2013年度 Vol.2、私立大学情報教育協会、pp.20-23
- 2013、「マレーシア・クランタン州におけるIntercultural Learning and Community Engagement (ILCOME) プログラムの試み——短期留学でのソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を活用したサービスラーニングにもとづいて——」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』、第51巻、pp.71-84.
- 藤巻正己、2009、「東南アジアの国民国家とエスノナショナリズム」、『東南アジア入門』、古今書院、pp.18-37
- Julian C H Lee and Julian Hopkins ed., 2012, *Thinking Through Malaysia: Culture and Identity in the 21st Century*, SIRD press
- Kahn S. Joel, 2006, *Other Malays: Nationalism and Cosmopolitanism in the Modern Malay World*, Singapore University Press
- 吉良伸一、2011、「社会学的教育実践としてのサービスラーニングII」、『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』49、大分県立芸術文化短期大学、pp.87-98
- Noor A. Farish, 2002, *The Other Malaysia: Writings on Malaysia's Subaltern History*, Silverfish Books